

「十字架の連帯」

主任司祭 吉池 好高

今年の四旬節、そして迎える主の十字架の死と復活を記念する、過ぎ越しの聖なる三日間は、私たちにとって、決して忘れることの出来ない、特別なものとなってしまいました。東北地方を襲った未曾有の大災害の犠牲となった方々の、受け止めようもない悲痛な苦しみと悲しみは、この島国に住む全ての人の心に波紋となって押し寄せています。身が安全な場に置かれていることを心底、後ろめたく受け止めつつ、この苦しみと悲しみの波に身も心も翻弄されたいと思います。その苦しみと悲しみの、泡立つ濁流の中から、十字架のイエスを見つめたいと思います。イエスの十字架は、悲惨な現実の中にある全ての人との神の子の連帯の姿です。イエスがもたらした救いは、十字架の死によって示された、この連帯なしには実現されなかったのです。

この未曾有の大災害の中で、キリスト者として私たちに出来ることは、そこに、イエスの十字架を見ることです。十字架のイエスが示し、呼びかけてくることを精一杯受け止めることです。神は何もしておられないのではない。神はあの時と同じように、この苦しみの中で、私たちの一人となって、この苦しみに巻き込まれて、私たちと連帯していてくださるということを信じ、証することです。

私たちに何が出来るというのでしょうか。

この四旬節、そして迎える聖週間と復活祭の私たちの祈りの全てを、この苦しみの中にある全ての人の祈りとしてささげること。

安全なところに身を置いて、流れ行く日々の中で、この苦しみの中にある人々との、苦しみの連帯が断ち切られていることに対する、心からの悔い改め。

連帯が真に連帯となって苦しみに中にある人々に繋がるものとなるよう、私たちに出来る最善の努力を傾けること。

十字架の上に死んで、墓に葬られたイエスを、三日目に死者の中から復活させられた神を信じる者たちとして、長い復興への道のりを、自分たちが歩む十字架の道として、これから予想されるこの国の困難を引き受けてゆくこと。